



「ようこそ先輩」 選りすぐりのゲストより、生徒の皆さんへ愛をこめて



「挨拶」 ゲスト: *校長*佐藤 秀克先生（白沢中 2 度目の勤務1人目）

白沢中学校では、朝は「おはようございます」。昼には、「こんにちは」。夕方には「さようなら」と誰もが笑顔で挨拶をしてくれます。

（←校長先生、お若いっ!）

前回勤務していたとき、担任をしていた自分のクラスがあまりにも挨拶に元気がなかったの
で、生徒たちにもう少し元気な挨拶をさせたいと思い、「挨拶」の語源を調べて話したことがありました。

「挨」には「心を開く」、「拶」には「心に近づく」という意味があるそうです。

つまり、「挨拶」とは「自分の心を開くことで、相手の心に近づいていくこと」を意味しているそうです。

先日、ある生徒から「校長先生、テスト勉強頑張りました。」と。別な生徒からは「校長先生、声、大丈夫ですか？」と、朝一番に声をかけられました。また、三者相談を終えた生徒が、自転車置き場の前を歩きながら、校舎を歩く私に気がつき、手を振ってきたので、私も手を振り返しました。語源を考えると、きっとどれも「挨拶」なのだと思います。

当たり前だと感じてしまっている毎日ですが、気持ちのいい「挨拶」が交わせる学校はやはり素敵だと思います。

（3年生とは、あと何日この素敵な「挨拶」を交わせるのだろうと思う今日この頃です。）



「数を楽しもう」 ゲスト:数学科* 高橋 勉先生（白沢中 2 度目の勤務2人目）

25 年ほど前の白沢中に4年間勤務していた高橋です。→

当時の白沢中学校は各学年4クラスで、全校生徒数約 400 名の規模の学校でした。
現在は 171 名ですから随分と減ってしまいましたが、今の白中生は少ないながらも勢いがありますね。

さて、私からは「数学」について話しましょう。

「数学のことを考えると眠たくなる、気分が悪くなる。」などと言う生徒が時々?います。さらには、「将来、数学は何か役に立つんですか?」と言う生徒もたくさんいます。それらを言われると、「かわいそうだな~」と思ってしまいます。
数学の学問としての面白さ、物事を数学的に考えることの必要性和便利さ、問題を解決できたときの爽快感、思い
つかなかった考え方を知ったときの「なるほど!」「すごい!」という納得感と感動、これらは数学でないと味わえない
ものです。これらに気付かずに、数学をやっているなんて、もったいないことです。



① まずやってみて、「なぜだろう?」を生み出すことが「学びへの第一歩」

② 次は、納得するまでやり続ける。納得できなければ、しつこく誰かに聞く。

1つできることが増えれば自信につながるし、「他にもできることが増えていく」のが数学です。

「数学の学び方は、みなさんの生き方につながります!」

今、ここから! あきらめないでがんばろう!





「自己決定の心を養おう」

ゲスト:社会科* 菅野 昭浩先生

「白沢中学校」は「**白岩中学校**」と「**和木沢中学校**」が統合して誕生した学校です。

私は**白岩中学校**の出身で、現在の白岩幼稚園の場所にありました。当時は 330 名ほどの生徒が、狭いグラウンドで様々な部活動に励んでいました。今は存在しない我が母校ですが、現在の白沢中の校歌に、白妙、岳山・・・など当時の校歌に詠まれていた言葉をみると懐かしく感じます。

「**明るい空に朝が来て・・・**」「**白妙の君影草は・・・**」「**安達の真弓いにしへの・・・**」「**朝霧深き武蔵野の・・・**」

これは私が通ったすべての学校の校歌の冒頭です。時折口ずさむと、当時の楽しい時間を思い出します。(一生の財産です。)

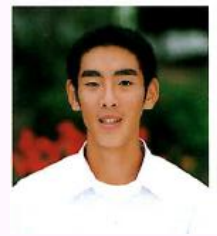
小学校・中学校は別として、高校も大学も自分で選びました。自分の進む道は、自分で決めなければなりません。皆さんもそうあってほしいです。そして、また、この白沢地区に戻ってきてください。白沢で待ってまーす。



「僕も白中生でした!」

ゲスト:理科*遠藤 勝先生

中3のボク⇒



21 世紀を迎えるころ、僕は白沢中に「**生徒として登校**」し、21 世紀の 1/4 が過ぎるこの春から「**教師として勤務**」しています。そして今、改めて「**白沢中はやっぱりすばらしい学校だな**」と感じています。

大人になってから聞いた「中学生時代の僕たちを育み励まし支えてくれた恩師の言葉」それを受けて私が、「今・ここ」で感じていること。そして何より、「君たちを応援してくれる保護者の方の熱量の高さ」「地域みなさんの白沢中への関心の高さ」は、いつの時代も変わらないのだと思いました。

白沢中学校卒業生の「一人の先輩」として伝えたいことは、「生徒のみなさんには、持ち前の積極性で、**得意なことはもちろん、苦手なことにでもどんどん挑戦してほしい**」ということです。

その結果が上手くいくこと、上手くいかないこと、はあると思いますが、**みなさんを、たくさん**のサポーターが応援しています。

第 7 号は、「今年も白沢中ゆかりの先生大集合!」ということで、ゲスト 4 名(みなさんの先輩、白中先生の先輩)に寄稿いただきました。**25 年前、世界は「ミレニアム」(西暦 2000 年=イエスキリスト生誕から 2000 年)**で盛り上がりったりちょっとした不都合問題(**コンピューターが上手に 2000 年を認識できない、とか**)が持ち上がりたり、そんな時でした。

校長先生、高橋先生は、ミレニアムを**白沢中**で迎えたわけですね。25 年後に再び白沢中で働くなんて、想像していなかったでしょう。そこには「ICT」や「SNS」なるものが入っていて、学校を取り巻く状況がこれほど様変わりするなんて、思ってもいなかったのじゃないかしら。

そんなふうに、時間は過ぎ、世界はこれからも変わっていきます。この先不安だ、と思っても、きっともう後戻りは出来ない。さあ、それならば、自分はどう進めばいいのでしょうか。どこにコンパスの芯を定めたらいいでしょう。**25 年度の「こうありたい自分」**をちょっと想像して、ゲスト先生メッセージから「**心にとめたい一言**」を見つけてもらえたらいいなあ、と思います。

今年もあと少し。一歩踏み出す秋に

「読書の秋」ですよ!図書室にも「新刊続々登場」します。自分を励ます 1 冊、是非見つけてください。